

第4学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 松永 庸助

1. 単元名 「ふれあい大蔵大作戦Ⅱ」 ～ お年寄りとよりよく関わろう ～

2. 単元について

児童の実態（児童観）

○ 本学級の児童は、第1学年の生活科の学習で、地域の高齢者の方々に昔の遊びを教してもらったり、第3学年の社会科の学習では、七輪の使い方を教してもらったりしている。また、第4学年の社会科の学習「安全なくらしとまちづくり」では、地域の高齢者の方々が自分たちの命を守ってくれていることを改めて知った。さらに、これまでの総合的な学習の時間の学習では、気付いたことや考えたことなどを関係付けたり、比較したりして、大蔵のまちの自慢について考えることができた。

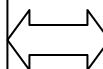
しかし、大蔵の自慢は、建物や行事が中心で、そこに住む人へと目を向けることができていない。さらに、地域の特徴である高齢者と自分とをつなげて考えたり、日常的に高齢者の方と関わっていこうという気持ちをもったりするまでには至っていない。

○ 第1単元「ふれあい大蔵大作戦Ⅰ」では、体験活動や取材活動を通して、高齢者の思いや願いなどの実態調査を行った。それを通して、交流活動が自分たちができることであることに気付いている。

教材の価値（教材観）

○ 本単元では、自分たちができるよりよい交流の仕方を見つけるために、高齢者福祉施設の利用者や職員へのインタビューや体験活動を通して、相手の立場に立った考え方をできるようにするとともに、お年寄りに対する見方を変えることを狙いとしている。また、課題に沿って繰り返し触れ合ったり、インタビューしたりして、友達と協力して課題を解決することができる力の育成もねらっている。これらの学びは、5年生「環境」、6年生「まちづくり」の学習課題にもつながるものである。

○ 言語活動や教科等との関連の視点からは、学習した話し合いの仕方やインタビューの仕方等を総合的な学習の時間で活用するといった関連を図る。また、道徳や特別活動は、総合的な学習の時間を補完するものとして位置付ける。これらのことにより、各教科等での学びが総合的な学習の時間で活用されたり、総合的な学習の時間での学びが各教科等の理解の深まりにつながったりする等して学習がより充実していくことをねらっている。



方策・方法（方法観）

- ◆ 大蔵に住む高齢者の思いに答え、自分たちができることを考える活動を通して、自分たちができる活動を実践していくことができるようにする。
- ◆ 自分たちができることを実践していく一つ一つの過程において探究のプロセスを位置付けることで、総合的な学習の時間における学び方を身に付けることができるようにする。
- ◆ 自己の学びを学び合いの場で進んで生かすために、ポートフォリオを効果的に活用する。
- ◆ 思考ツールを効果的に活用し、一人一人に自分なりの考えをもたせるとともに、学び合いや生かし合いができるようにし、探究的な学び方を一層充実させる。
- ◆ 各教科・領域での学習を生かし、手段・場・方法を工夫した伝え合い発信する場を単元の中に位置付ける。

3. 目指す子ども像

- 自ら課題を持ち、課題意識を連続発展しながら協同してよりよく問題を解決しようとする子ども
- ◎ 問題解決や探究活動に主体的に取り組み、高齢者の問題を、比較・関連・統合させながら考える子ども。
- 相手や目的を意識して、自分たちができることを考え、実践しようとする子ども。
- 大蔵のまちの一員として、地域の方々とよりよくかかわろうとする子ども

4. 単元目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
問題解決への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者や高齢者を支える人々の働きや思いや願いなどを進んで調べ、表現しようとする。 ○ 高齢者の方々に対して自分のできることを考え、進んで実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 高齢者や高齢者を支える人々の働きや思いや願いなどを進んで調べ、表現しようとしている。 (行動観察・ワークシート) イ 高齢者の思いや願いを進んで調べたり、その思いに応えたりしようとしている。 (行動観察・発言分析)

<p>学び方や 問題解決の力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題にそって見学・調査したり、インタビューしたりして友だちと協力して問題を解決することができる。 ○ 調べて分かったことを話し合い、大蔵に住む高齢者やその高齢者にできることについて、比較・関連・統合させながら、思考を深めていくことができる。 	<p>ア 交流の内容について考える活動では、現状の問題点を考えたり、より良くする方法を考えたりしながら、課題解決や探究活動に主体的に取り組むことができている。(発言内容・行動観察)</p> <p>イ 調べて分かったことを話し合い、大蔵に住む高齢者やその高齢者にできることについて思考ツールなどを用いて、比較・関連・統合させながら、思考を深めていくことができている。(発言分析・行動観察)</p>
<p>考える力 ・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流する相手や目的を意識して、伝えたいことを自分の言葉で伝えることができる。 ○ 交流を通して高齢者と心が通じ合う喜びを感じたり、問題点に気づき、その問題を解決する方法を考えたりすることができる。 	<p>ア 高齢者との交流では、これまでに調べたお年よりカードや関わる相手を意識して、関わり方を考え、工夫することができている。(発言分析・行動観察)</p> <p>イ 交流活動を通して、高齢者が喜んでくれることを考え、実践したり、高齢者の立場に立ってその思いや願いに応えるための方法を考えたりすることができている。(発言分析・ワークシート)</p>
<p>自分への 気づきと 生き方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に対する自分の考えを結論付け、学習成果を自己評価できる。 ○ 大蔵のまちの一員として、地域の方々とよりよくなかろうとする。 	<p>ア 課題に対する自分の考えを結論付け、学習成果を自己評価することができている。(発言内容・行動観察)</p> <p>イ 大蔵の町に住む高齢者の方を大切にしようとする意識をもち、その高齢者が住む大蔵の町とより良く関わろうとしている。(ワークシート・行動観察)</p>

5. 学習指導計画（総時数18時間）

第一次 高齢者と交流しよう（7）

- 1 交流の計画をする。①
- 2 交流する。②
- 3 交流を振り返り、上手くいった部分とうまくいかなかった部分を整理し交流計画をたてる。①
- 4 交流する。②
- 5 交流を振り返り、上手くいった部分とうまくいかなかった部分を整理する。①

学習問題

お年寄りの方へのより良い関わり方はないのかな。

第二次 よりよい関わり方を調べよう。（7）

- 1 計画をたてる。①
- 2 年長者の里での調査活動。④

職員へのインタビュー（4）

- ① 準備
- ② インタビュー活動
- ③ まとめ

お年寄りへのインタビュー（4）

- ① 準備
- ② インタビュー活動
- ③ まとめ

- 3 インタビューしたことをまとめる。①
- 4 調べたことをもとに、交流計画をたてる。①・・・(本時)

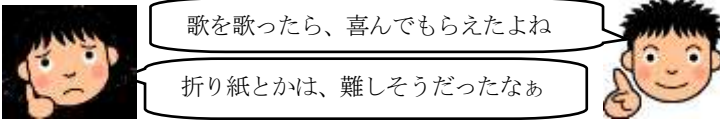
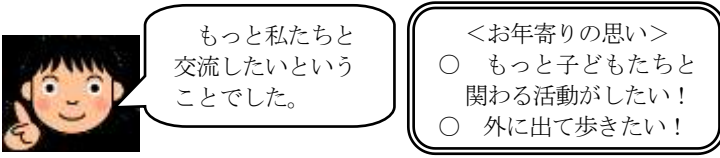
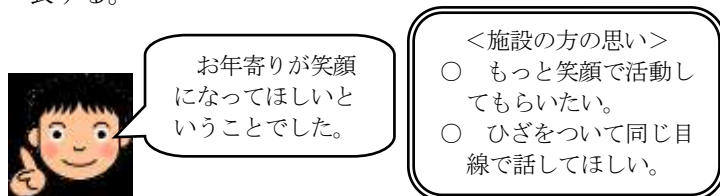
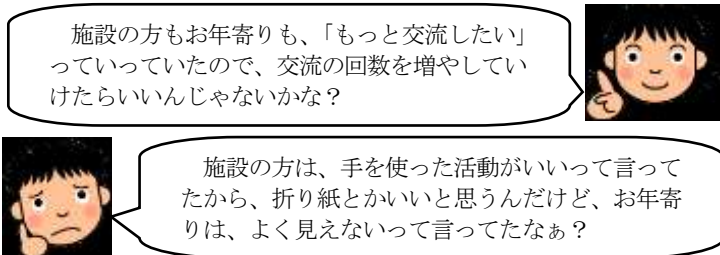
第三次 ぼくたちにできること（4）

- 1 交流の準備をする。①
- 2 交流する。③

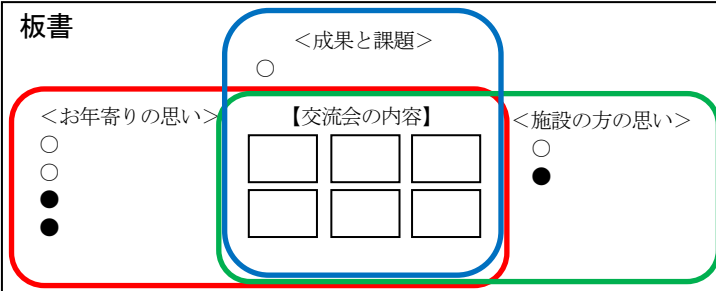
(1) 主眼

- これまでの活動をふり返り、お年寄りの思いに寄り添った交流の仕方を検討する活動を通して、お年寄りとのより良い交流の計画をたてることができるようにする。

(2) 展開

主な学習活動	支援・指導上の留意点 (評価規準・評価方法)	他教科等との関連
1. 本時のめあてを確認する。	○ 本時学習のめあてを確認することができるようにするために、学びの足あとを振り返る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて 第3回のふれあい交流会の計画を立てよう。</div>		
2. これまでの交流会を振り返り、各グループで調べたことを発表する。	○ より充実した交流会にする意欲を高めることができるようにするために、携わる方々の思いにこたえる必要があることをおさえる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 4年 道徳(10月) 「目をかくしてみ て」 (新版いのち 4 ～6年生版) 【身に付けた知恵や技】 ・ 相手の立場に 立って考えるこ と </div>
(1) これまでの交流の成果と課題を発表する。	○ 次回の交流をよりよいものにするために、これまでの交流の成果と課題を発表する。 	
(2) お年寄りがしたい活動はどんな活動かについての調査結果を発表する。	○ お年寄りの思いに沿った交流活動を考えることができるようにするために、お年寄りの方がしたい交流活動やその行い方の調査結果を発表する。 	
(3) 施設の方がしてもらいたい活動についての調査結果を発表する。	○ 施設の方の思いに沿った交流活動を考えることができるようにするために、施設の方が今まで行っている交流プログラムや行おうと考えている交流プログラムについて発表する。 	
3. 各項目をもとにして、交流の仕方を考える。	○ それぞれの思いにこたえた交流プログラムができるようにするために、発表された項目を根拠としたプログラムを提案したり、行い方を工夫したプログラムを発表したりする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 4年 国語(9月) 「だれもが関わり 合えるように」 【身に付けた知恵や技】 ・ 調べたことを 整理して発表す る </div>

○ 子どもの考えた内容が可能かどうかを判断したり、アドバイスを貰ったりすることができるようにするために、年長者の里の職員の方に GT としてアドバイザーをしていただく。



【学び方や問題解決の力】

取組をまとめたり、よりよいものにするために、再検討したりすることができる。
(発言内容・行動観察)

4. 本時の内容を振り返り、次時の学習について確認する。

- 交流への意欲を高めることができるようにするために、次時の活動の準備を行っていくことを伝える。
- 本時の学習でできるようになったことや初めて知ったことをまとめることができるようにするために、振り返りシートに自己評価をし、振り返りを行う。